

# 令和7年度 学校マネジメントシート

学校名( 三重県立朝明高等学校 )

## 1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「社会に貢献できる人間へ -自分づくりの三年間-」をテーマとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」の教育指針のもと、生徒が成長する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会人基礎力」を身につけ、礼儀を重んじ、社会規範の遵守・挨拶の励行・正しい言葉遣いができている。</li> <li>・目標を持って学校生活を送ることができ、進路実現を果たしている。</li> <li>・学習習慣が定着し、基礎的・基本的な知識・技能とその活用能力を身につけている。</li> <li>・他者とコミュニケーションを図り、協働する力が具わっている。</li> <li>・自己肯定感や自尊感情を持ち、人権尊重の意識や態度を身につけ、自分と他者の命と人権を大切にす「豊かな心」を具えている。</li> <li>・地域福祉に貢献できる知識・技能と行動力を身につけている。(ふくし科)</li> </ul>
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上を図るため、ICTを活用して主体的・対話的で深い学びを目指した「授業改善」に取り組んでいる。</li> <li>・各教科や分掌において、「社会人基礎力」を育むため、「考える力」や「判断する力」、「表現する力」の涵養のために具体的な教育的働きかけを行っている。</li> <li>・教育相談及び特別支援教育等の知識とスキルをもとに、互いに協働して個に応じた指導と支援を行うことができる。</li> </ul>

## 2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt; 自己肯定感や自尊感情が育まれ、自らの成長を実感して、進路希望が実現する。</p> <p>&lt;保護者&gt; 安全・安心して学べる学校であり、心身ともに健全な子どもの育成が図られている。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 卒業までの粘り強い支援と、卒業後、社会を生き抜く力をつけている。</p> <p>&lt;進路先&gt; 社会人基礎力をはじめとする人間力の向上に係る教育が行われている。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;小中学校&gt; ・発達段階に応じた学びの連携と協力。</p> <p>&lt;保護者&gt; ・学ぶ力・心の力・体の力の育成と希望する進路の実現。</p> <p>&lt;地域社会&gt; ・地域経済や自治活動の中心となる人材の育成。</p> <p>&lt;卒業生&gt; ・母校に誇りを持ち、同窓生としての情報交換の場。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>&lt;小中学校&gt; ・継続的・体系的なキャリア教育に係る連携。</p> <p>&lt;保護者&gt; ・社会の一構成員としての自覚確立のための連携。</p> <p>&lt;地域社会&gt; ・生徒支援及び社会人マナー向上の支援。</p> <p>&lt;卒業生&gt; ・在校生の進路実現、学校の教育環境の整備に対する情報提供や人的・経済的な支援。</p>

(3) 前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力の向上に向けての取組を推進しており、礼儀を重んじ、社会規範の順守・挨拶の励行・正しい言葉遣いの指導が浸透してきており、生徒の挨拶や身だしなみも気持ちよく、朝明高校の評価は向上してきている。</li> <li>・しかしながら、中学生やその保護者に朝明高校の魅力がうまく伝わっていない現状があるため、中学生への説明の場や卒業生を活用したPRなど、引き続き情報発信やアピールに努めることが必要。</li> <li>・ふくし科の「手話歌」の披露や「よってこCAFE」などは、地域のまちづくりへの参画として、本校の存在意義をアピールする良い機会である。今後は、地域福祉に貢献できる知識・技能及び行動力を身につけて「社会に貢献できる人」の育成に向けて、継続的に取り組んでいただきたい。</li> <li>・インターンシップや実習、ボランティアに参加してキャリア観を身につけ、就職した後のことを具体的に想像できるようにして、離職率の低下につなげることも必要。</li> </ul>
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣・挨拶が身につけている生徒が増えてきている。</li> <li>・自己肯定感や自尊感情を高め、自分の生き方や目標を考えられる生徒となるよう働きかけが必要である。</li> <li>・基礎学力が十分に身につけていない生徒へ確かな学力を育む。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、ICT活用の推進や観点別評価など学習指導要領に基づく教育活動をさらに推進する必要がある。</li> <li>・ふくし科生徒・教員への負担が大きいので、地域参画行事への見直し・精選を図る。</li> <li>・外部講師等を活用し、生徒同士のいじめ防止への取組をさらに推進する。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。</li> <li>・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題解決に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。</li> <li>・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の様々な取組の様子や生徒の活動の様子など、HP等を通じて朝明高校の魅力を外部に積極的に発信する。</li> <li>・教員数の減少に見合った学年・分掌業務の見直しを進め、働き方改革を進めていく。</li> <li>・可能な限り職員会議の資料はPDFで共有フォルダに入れて、職員がいつでも見られるようにする。</li> <li>・可能な限り週休日を部活動休養日に設定することと、活動時間の終了を早めるよう各顧問へ依頼する。</li> <li>・学校関係者評価委員に生徒の様子を見ていただく機会をさらに増やす。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に貢献できる人間となるため、基礎的な知識や思考力・判断力、行動力の育成に向けた教育活動を実施する。</li> <li>・地元企業の協力のもと、勤労観や職業観を身につけるインターンシップを2年生において実施する。</li> <li>・全生徒が自己肯定感や自尊感情を高められるよう、教育活動全体を通じて指導する。</li> <li>・地域の事業所等と連携した介護実習を実施し、福祉や介護について専門的な知識やスキルを身につける。(ふくし科)</li> <li>・介護福祉コース選択者全員が介護福祉士国家資格取得を目指す。(ふくし科)</li> </ul>
学校運営等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身が自己の教育力の向上を目指し、授業研究・公開授業・指導法の改善を積極的に行い、学校組織としての教育力を高められるよう「授業改善」の取組を進める。</li> <li>・規範意識の醸成、基本的生活習慣の確立を基盤とした生徒の指導・支援を徹底し、地域から信頼される学校づくりを推進する。</li> <li>・教職員が「やりがい」や「満足感」を感じながら生き生きと働くことができるよう、「働き方改革」の取組を推進する。</li> <li>・不祥事根絶に向け「信頼される学校であるための行動計画」に基づいた取組を推進する。</li> </ul>

#### 4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿  【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間で、部活動や商業資格取得、上級学校を目指す意欲など、明確な目標をもって取り組み、自分づくりを行い人間的に成長しようとする生徒</li> <li>・基礎学力から学びなおしをして、社会で通用する知識と教養、礼儀やコミュニケーション力を身につけようとする生徒</li> <li>・福祉の知識と実践力を身につけ、福祉施設や身近な人々の役に立とうとする意欲を持つ生徒（ふくし科）</li> </ul>
-------------------------------------	--

#### 5 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、**児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。**

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、**学校の実態に応じて設定する。**

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【学習指導】 (教務総務)	(1)わかる授業の徹底、教員の授業力の向上に向けた取組の推進 ・授業見学週間の実施と振り返りの実施 ・すべての教員が一人一台端末やICTを活用した教育活動の推進に取り組む (2)安心して学べるクラス作りの構築 ・授業に向かう環境づくりの徹底 ・面談週間の設置等、生徒へのきめ細やかな面談や相談の機会の充実 ・生徒の支援に向けた情報共有の強化	プロジェクター投影をしやすいようホワイトボードを進めた。 面談週間は開催し、充実した。	
【生徒指導】 (生徒指導)	・生徒アンケートの達成率90パーセント以上 生徒が、(服装・頭髪のルール・ベル席や授業のマナーを守る・敬語を正しく使う・日常的に挨拶を行う) ・遅刻の減少(体調不良や家庭事情など生徒の実情に合わせた指導)に取り組めます。	生徒アンケートでは達成率を超えることが出来ている。生徒から校則の見直しなどの意見を聞き、参考にしている。挨拶が出来ていることの評価を外部の方からいただいている。 遅刻の統計は取れていないが、減少はできていないように思う。	
【キャリア教育】 (進路指導)	(1)「特別な支援を要する生徒」や「日本語指導が必要な生徒」への指導と進路実現 ・キャリア学習支援員やハローワークとの連携を密にして、支援体制を整える。 ・3年生では面接練習を中心に、個人のスキルがあがるよう、必要に応じて個人指導や面談を行う。 ・卒業生の進路先と連携をとり、卒業後も引き続き支援を行う。 (2)自分の将来に価値を見出し、目標を持たせるとともに、課題に対し考え、行動できるようにする ・2月合同進路ガイダンスの実施(1.2学年) ・11月インターンシップの実施(2学年)	(1)・キャリア支援員との面談や職業適性診断テストの実施・ハローワークとの連携や情報交換などを行った ・全職員が協力して面接を4段階行った ・5月職場訪問・11月インターンシップ先の訪問・1月電話にて就労状況の確認をした (2)・1.2年生合同進路ガイダンス実施2/13 ・インターンシップ 11/10～11/14まで5日間行った ・1年9回・2年16回・3年13回	

<p>【ふくし教育】 【ふくし科】</p>	<p>・キャリア教育にかかわる行事の実施(年間10回以上) (3)進路委員を設置し、生徒が活躍できる場を増やす</p> <p>(1)福祉関係の資格・検定の取組促進(ふくし科) ・介護福祉士国家試験、合格100%(3年生介護福祉コース7人) ・介護職員初任者研修修了(2年生受講者)合格100% ・社会福祉・介護福祉検定1級(50%)、3級(50%)、4級(30%)合格 ・様々な福祉検定を取得するよう検定一覧表を掲示し、声かけをする。</p> <p>(2)異校種や地域との交流を実施、ふくし科の魅力や福祉について伝える。 ・保々子ども園、保々小学校、特別支援学校の北勢きらら学園との交流を実施する。 ・ふくし科のHPとインスタグラムで魅力を発信する。 ・卒業生や施設職員の協力を仰ぎ、施設で働く楽しさ、魅力を発信する。</p>	<p>(3)教員と生徒の橋渡しとして活躍した</p> <p>(1) ・第38回介護福祉士国家試験合格率は、約85.7%で、全員合格することができなかった。 ・社会福祉・介護福祉検定1級8人受験し5人合格62.5%、3級14人受験し10人合格71.4%、4級2人受験し1人合格50%で目標を達成することができた。</p> <p>(2)保々子ども園とは保育の授業で交流をすることができた。保々小学校とは、福祉用具を貸し出し、手紙のやり取りをして交流をした。北勢きらら学園とは、グループに分かれてオンライン交流をした。互いに学校紹介、自己紹介、特技や手話歌の披露、クイズ等をして楽しんだ。プレゼント交換も行った。 ・ふくし科のHPでの発信が昨年度よりできなかった。インスタグラムで魅力発信を行った。 ・施設職員の方の協力で2年生介護過程の授業でアセスメントについて教えていただいた。 ・3年生対象の介護ロボット体験については、雪のため中止となったが、2年生を対象に開催した。</p>
<p>【心身の育成】 【保健部】</p>	<p>(1)自らの体の健康のために適切な行動を取れる力を養う。 ・定期健康診断の結果(所見あり)の配布(早期治療を促すため。) ・検診結果一覧の配布(三者懇談会で配布し、生徒・保護者に現状を認識させる。) ・自身の健康状態の把握(体調不良時やけが等の場合に、自分の現状を周りに発信する力を育てる。)</p> <p>(2)自己肯定感を高められるよう、心の力を養う。 ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施(37回予定。) ・悩み・不安のある生徒への働きかけ 保健室によく来室する生徒や欠席の多い生徒に対して継続的に観察・声かけを行い、学年団とも情報共有する。</p> <p>(3)「支援を要する生徒」を把握し、支援を行う。 ・心理検査を実施し、生徒に自身の強み・弱みを把握させる。(1年生) ・「支援を要する生徒」の情報共有の徹底 特別支援教育校内委員会の実施、保護者との連携を行う。</p>	<p>結果を配布し、声かけを行ったので、精密検査の受診は完了できた。しかし、歯科治療、視力矯正はなかなか徹底できなかった。</p> <p>→実施できた</p> <p>→できた</p> <p>→実施した 心理検査を実施し、日々のかかわり方の参考になっている。</p> <p>→できた 定期的に委員会を開催し、情報共有ができた。また、関係機関と連携もできた。</p>

【人権学習】 (人権担当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期に1回人権LHRを実施する。</li> <li>・年に1回、全校での人権講演会を開催する。</li> </ul>	<p>計画に基づき、各学期LHRを実施。12月には、全校で臨床心理士・弁護士の先生を招き講演会を実施した。</p> <p>定期的に、地区との懇談会も開催した。</p> <p>地区での高校進学説明会も参加。(4地区)</p>	
【学習環境】 (事務部)	<p>大規模改修2件、天然芝グラウンドの本格的改修、維持、各教室、実習室等施設整備の「高品質な」、「本校の学び」を生徒が体感できる学習環境の向上を実施します。</p> <p>また、支援金・給付金等を最大限活用して、安心して「本校での学び」の機会を切れ目なく、継続して行います。ふくし科の学習環境も、進路保証も視野に入れた特殊備品等の更新、交付、整備に努めます。</p>	<p>大規模改修、関係令達工事も各分掌先生方のご理解をいただき竣工できました。天然芝グラウンド維持には、はじめて「冬芝」購入特別予算で整備に充てることができました。ふくし科産振備品購入、1,2年生HR教室白板化、LED照明も完成等が達成できました</p> <p>・支援金、給付金も受益対象者に悉皆受益ができ、(他府県及び奨学金含む)生徒個々の学習支援につなげることができました。</p>	

### 改善課題

<p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事内容の精選を行う</li> <li>・低学年から家庭での学習を定着させ、大学入試や就職試験に対応できるような学力を身に付けさせる</li> <li>・特別な支援が必要と思われる生徒の進路保障にあたっては、保護者の理解を得ながら進めていくことが重要ですが、教員側の見立てと本人・保護者の認識との間に差が生じることもあり、進路に関する理解や方向性の共有に時間を要する場合があります。</li> <li>・挨拶や言葉遣い、ルールを守るといった基本的な生活習慣について、指導を要する場面が多くみられるようになっている。</li> </ul> <p>【ふくし科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士国家試験について、今年度よりパート合格の制度になったため、来年度からは個々の生徒が苦手とする分野、パートごとに学習を強化していく必要がある。</li> <li>・社会福祉・介護福祉検定料が値上がりしたが、魅力を発信するとともに受験者を増やしていく必要がある。</li> </ul> <p>【保健部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな配慮や支援が必要と思われる生徒も見られるが、本人に困り感が少ない場合や保護者との認識の共有が十分に図れない場合もあり、必要な支援につなげていくことが課題となることがある。</li> <li>・感染症対策がおざなりになっており、感染拡大につながってしまった。生徒自身が起床時の体調を自分で判断して適切に行動できるよう、さらに健康指導を徹底していきたい。</li> </ul> <p>【人権】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権LHRについては、計画に基づき運営できている。実施のための検討会も開催できている。一方で、全校向けの講演会のテーマ選びや講師選定が難しい。</li> </ul> <p>【事務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境整備について、今年度予算採択されなかった(他校の危険案件等に理由・教委全体の工事費の予算不足)案件や、新たな目線での改修、整備分野に継続して予算要望を実行する。また、緊急事案は迅速な対応を継続していく。</li> <li>・普通科、ふくし科の魅力進展、事業の増進に資する備品、事業予算(例:シラバス記載のふくし科備品の2年連続での交付、同科の魅力増進に寄与)の確保、有意義な使用で学習意欲向上の継続を図っていく。</li> <li>・授業料無償化の就学支援金、奨学給付金制度の変更に対して、「わかりやすい資料作成」等で、保護者負担の一層の軽減化を実行し、他府県居住保護者にも、丁寧で府県毎の案内を併せて実行していく。</li> </ul>
--

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、**教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。**

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【組織運営】	(1)学年・分掌業務の連携、情報の共有化促進 ・業務の精選・見直しと主任会(月曜6限目)での生徒情報の共有。 ・いじめ対策重点校の取組として、職員研修等を実施し、いじめ対策、啓発、防止に努める。 ・SCやSSWへの適切な引継ぎで課題の早期発見・解決をめざす。 ・委員会、学年会・分掌会、校内研修の簡素化を図る。 ・SSSや外部指導者等を積極的に活用する。	主任会(週1回)にて、情報共有を行った。また、毎週行う生徒指導委員会や人権教育推進委員会の中でも生徒の情報共有を実施している。 いじめ対策重点校の研修会は、11月と2月に計画したが、2月が大雪のため中止となった。SC/SSWとの連携も積極的に行った。委員会などは、簡素化した一方で、必要なもの(カリキュラム委員会等)が開催できていない側面も浮かび上がってきた。	
【資質向上】	・授業力向上を図る取組を実施する。 ・コンプライアンス及び人権意識の向上を図る取組。 ・管理職による授業見学を年2回実施。 ・校外研修や「NETで研修」の積極的な受講推奨。	・教諭による他県先進校視察1名派遣。職員会議で遡流報告。県内先進校授業視察実施1回。 ・体罰、盗賊に係る研修実施。個人情報漏洩注意喚起。 ・授業見学1回実施 ・概ね達成	
【広報活動】	・在校生の様子、卒業後の姿を伝える取組の推進。 ・授業公開に中学生(保護者)を呼びかけ、夏のふくし科体験講座、アスリートコース体験会の実施 ・HP等を通じた学校・生徒の情報発信、年50回以上	夏のふくし科体験講座 申込者35人 アスリートコース体験講座 申込者44人 HP更新回数：50回発信 5月に中学を含めた公開授業の実施	
【地域連携】	・主にふくし科生徒による地域交流活動 ・インターンシップや介護実習等で地域事業所等と連携 ・地域の小中学校、特別支援学校との交流、出前授業 ・保々地区敬老慰安会にボランティアとして参加 ・保々地区人権まちづくり講座における「手話歌」披露 ・インターンシップや介護実習等で地域事業所等との連携 ・聖十字デイサービスセンターでの高齢者の方との交流 ・保々地区よってこcaféでのボランティア活動	【ふくし科】 ・夏休みにふくし科体験講座を実施し、多くの中学生に参加していただいた。 ・保々地区敬老慰安会にボランティアとして生徒たちが参加した。 ・保々地区人権まちづくり講座における「手話歌」披露では、2年生全員と1年生介護福祉コース希望者が参加した。 ・インターンシップや介護実習等で地域事業所等との連携をした。 ・1年生全員で聖十字保々特別養護老人ホームとデイサービスセンターの施設見学を実施した。 ・3年生生涯福祉コース生徒が聖十字デイサービスセンターでの高齢者の方と実施した。 ・ふくし科の生徒たちが、ボラティ	

<p>【働き方改革】</p>	<p>(1)総勤務時間の縮減に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間：月平均20時間以下</li> <li>・月45時間超の時間外労働者の延べ人数：0人</li> <li>・年360時間超の時間外労働者の人数：0人</li> <li>・休暇取得日数：10日/年以上（全教職員）</li> <li>・定時退校日：月1日以上設定・定時退校率90%以上</li> <li>・会議時間：55分以内の放課後会議の割合80%以上</li> <li>・部活動休養日：計画通り休養日を実施できた部活動の割合90%以上</li> </ul>	<p>アで保々よってこ café に月1回参加した。3年生生涯福祉コース生徒全員で12月に企画・運営をした。</p> <p>(1)2025/12/31時点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均時間外労働時間：24.6時間</li> <li>・月45時間以上：のべ72人</li> <li>・年360時間超：12人</li> <li>・休暇取得日数：10.8日</li> <li>・部活動休養日：100%</li> <li>・定時退校率：90%</li> <li>・放課後会議：84%</li> </ul>
----------------	---	---

改善課題

<p>【ふくし科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集に対し応募人数が減少しているため、施設の方や福祉関係に関わる地域の方と協力し、小学校や中学校へ魅力発信していく必要があると感じた。</li> <li>・高校生活入門講座の全体の中で、ふくし科の体験をアピールする。</li> <li>・ふくし科の生徒の将来像を明確にすべきではないか</li> </ul> <p>【働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外労働時間数の月平均時間（24.6時間）は、県平均（19.9時間）に対しても、昨年度と数値（22.4時間）と比較しても高い水準であり、改善が必要。月45時間以上の延べ人数（72人）も、昨年度（64人）と比べ多い。安全衛生委員会でも毎回議題にしているが、効果的な対策を打てていない。今後、職員の数さらに減るため、どう対策するか課題である。</li> </ul> <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面（ふくし、人権等）で、地域連携を行ってきた。一方で一部の生徒が、地域へ迷惑をかけている場面も多くみられた。</li> </ul> <p>【部活動休養日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定・実施率は100%だが、平日に設定している場合も多く、教員の負担軽減につながっていない</li> </ul>
---

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>① 学校の魅力発信に課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくし科の活動についてはもっとアピールしてよいのではないかと。</li> <li>・朝明高校へ入学したら自分の目標・進路が保障されるという実績のアピール</li> <li>・人権をしっかり学べる学校というアピール</li> <li>・多様性をうけいれている教育課程をアピール</li> <li>・部活動の魅力、芝生のグラウンドやトレーニング室などの環境面での充実度のアピール</li> </ul> <p>② 保護者アンケートをとっているものの、それに対する返しが無い。せっかく意見をいただいているので、これらを改善課題としてどうしていくのかの筋道を示していくべきではないか</p>
----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>① 授業改善に向けた取組の充実</p> <p>② 特別な支援を含む個に応じた学びの充実</p> <p>③ 多角的な視点(各分掌)からの学校の魅力発信の充実</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>① 地域との連携の充実</p> <p>② 教職員の働き方改革のいっそうの推進</p>